

これも
あれも

相談していい？ 婦人科で話せる “あなたのからだの悩み”

監修 岩瀬 明 先生（群馬大学医学部 産科婦人科学教室 教授）

気になる
その症状

もっと気軽に婦人科の先生に 相談してみませんか？

またトイレ…
なんで
こんなに近いの?!

辛い、悲しい、
泣きたい、
何もしたくない…

最近、
ずっと疲れてる…
なんで…?

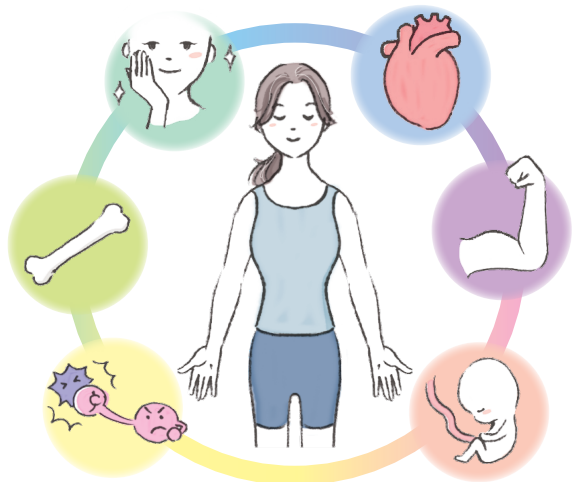


婦人科は、生理・更年期の悩みだけでなく、
排尿や気分の変化など“女性のからだ全体”を診る専門科です。
「こんなことも相談していいの？」ということでも、
不調があれば我慢せずにいつでも頼ってください。

なぜ 婦人科で相談してもよいの？

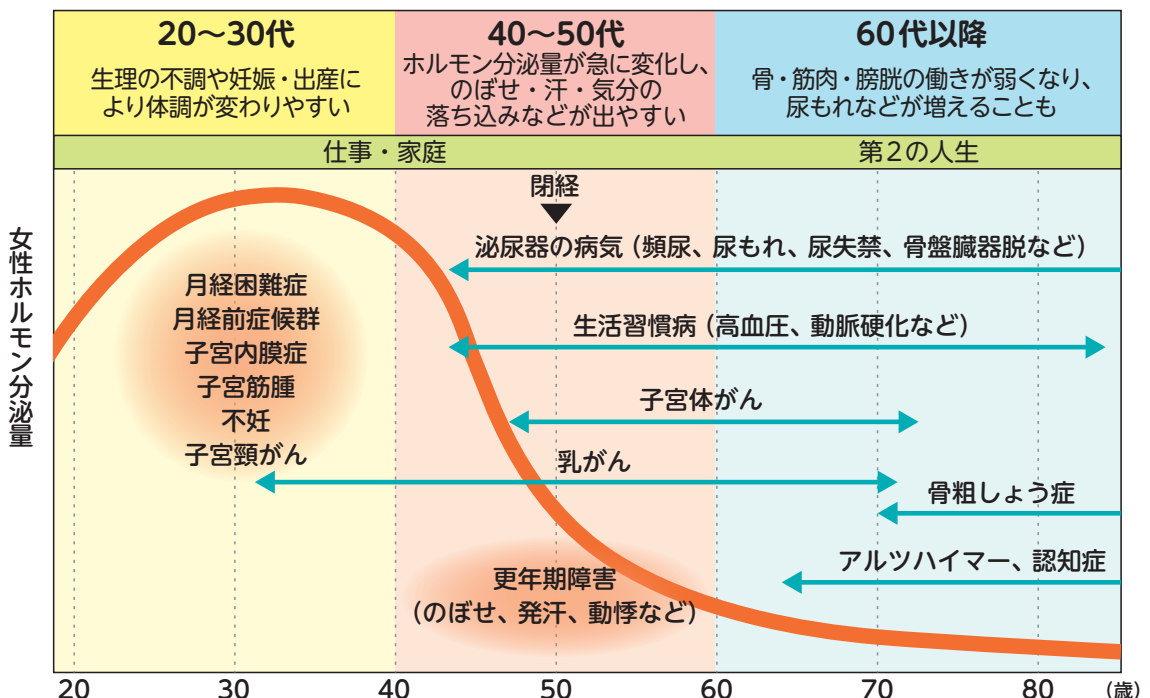
女性は年齢に応じて女性ホルモンの状態が変化していきます。また、結婚や出産、育児、閉経、仕事の変化などをきっかけに、心やからだの調子が変わることもあります。

女性ホルモンは、子宮・膣・乳房などの生殖器ばかりではなく、筋肉や関節、骨や脳、心臓や血管、皮膚や粘膜、自律神経、免疫にも作用し、女性の心身を守ろうとしています。



女性ホルモンの影響により、様々な症状（貧血、頻尿、のぼせなど）があらわれることがあります。
これらの変化は女性なら誰にでも起こりうるものであり、婦人科で気軽に相談することができます。

女性のライフステージと起こりやすい不調



※ オレンジの線は女性ホルモンのレベル（概念）を表しています

監修：群馬大学医学部 産科婦人科学教室 教授 岩瀬 明 先生

大丈夫! 一人で悩まないで、実は多い**排尿**のトラブル

何度もトイレに行きたくなる、尿もれしてしまう原因の1つに**過活動膀胱**という病気があります。
過活動膀胱は「膀胱が過敏になり、勝手に縮もうとしてしまう状態」です。
女性の場合、40歳以上の約9人に1人が悩んでいると報告されています¹⁾。



40歳以上の女性の**約9人に1人**が**過活動膀胱**に悩んでいます

1) Mitsui T, et al. Int J Urol. 2024; 31(7): 747-754

このような**症状**があっても、**一人ひとりに合った適切な治療**により、**改善する可能性があります**

仕事中も
トイレを我慢

子供をおんぶ・荷物を
持ち上げたときに
尿がもれてしまった...

外出の際に
トイレの場所を
気にしてしまう...

頻尿や
尿もれ
なども

気軽に**婦人科**で相談・検査することができます

問診～診断・治療までの流れ²⁾



問診

症状や、どの程度
日常生活に支障があるか
伝えましょう



検査

検尿や超音波検査
など



診断・治療

お薬での治療や
エクササイズなど、
あなたに合った治療をご提案

事前にセルフチェックができます! 詳しくは裏面へ

²⁾ 日本臨床内科医会 女性のミカタ 過活動膀胱の診察のながれ
<https://jyoseinomikata.jp/overactivebladder/flow.html> (2026年3月閲覧) を参考に作成



排尿の悩みも、婦人科で診てもらえます。
我慢せず、まずは気軽にご相談ください。

あなたの症状をcheck!

1つでも当てはまる**症状**があれば、
婦人科に相談しましょう。

朝起きた時から寝る時までに、
8回以上トイレにいった

YES

NO

夜寝てから朝起きるまでに、
トイレに行くために
何回も起きてしまうことがあった

YES

NO

急にトイレに行きたくなり、
我慢が難しいことが週1回以上あった

YES

NO

急にトイレに行きたくなり、
我慢できずに尿をもらすことがあった

YES

NO



もっと詳しく知りたい方は
こちらから ▶▶



キッセイ薬品工業株式会社

2026年6月作成
2026年9月改訂
BV050C